

科目名		作業療法管理学Ⅱ					
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	大内田 由美		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年						
授業概要	作業療法業務の管理運営とストレスマネジメントやリスクマネジメントについて基本的知識を学習する。また、作業療法士の臨床実習の目的や到達目標について学ぶ。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法士の職業倫理と職能団体としての意義と役割を説明できる。	
	○	○				作業療法部門の業務管理とストレスマネジメントを説明できる。	
	○	○				作業療法における安全管理について必要な意識と準備すべきことを説明できる。	
	○	○				インシデント・アクシデント報告書から要因と背景、対策を考え意見を言える。	
	○	○				作業療法士の臨床実習について目的や到達目標を述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト:大庭潤平・編著:作業療法管理学入門第2版. 医歯薬出版株式会社, 2021. 参考文献:金谷さとみ・高橋仁美・編:リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック. メジカルビュー社, 2018						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コースガイダンス・作業療法の法律と定義				授業の振り返り問題	
	2	作業療法士の職能団体としての意義と役割				授業の振り返り問題	
	3	作業療法士の職業倫理				授業の振り返り問題	
	4	作業療法部門の環境面と経済性				授業の振り返り問題	
	5	作業療法部門の人材育成について				授業の振り返り問題	
	6	作業療法部門の情報・時間・ストレスマネジメント				授業の振り返り問題	
	7	作業療法実践のための業務管理				授業の振り返り問題	
	8	医療におけるリスクマネジメントと医療事故				授業の振り返り問題	
	9	ヒューマンエラーについて				授業の振り返り問題	
	10	作業療法におけるリスクマネジメント				授業の振り返り問題	
	11	インシデント・アクシデント報告書とは				授業の振り返り問題	
	12	インシデント・アクシデント報告書演習(報告書の書き方)				演習資料の確認	
	13	インシデント・アクシデント報告書演習(背景と要因、対策について)				演習資料の確認	
	14	作業療法臨床実習の理解と管理体制				授業の振り返り問題	
	15	作業療法のキャリア(ワークライフバランスについて)				授業の振り返り問題	
評価方法	(1)授業の中で小テストを3回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト	○	○				100%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	作業療法評価学Ⅲ										
科目名(英)	Introduction to OT Assessment Ⅲ										
単位数	2		時間数	60時間		担当者	松田 茂				
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	作業療法士として病院勤務				
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部2年										
授業概要	1. リハビリテーション医療の中での作業療法評価の目的と流れを理解する。 2. 評価法の種類と方法を知る。 3. 評価結果の意味するものを学ぶ。 4. 収集した情報より全体像把握・ゴール設定・プログラム立案へと結びつける										
授業形態	講義: △		演習: ○		実習: △		実技: △		※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	◎	◎	◎			各評価を実施できるようになる					
	◎	◎				評価結果の意味するものを説明できる					
	◎	◎	◎	◎		収集した情報より全体像把握・ゴール設定・プログラム立案へと結びつける事が出来る					
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	オリエンテーション 徒手筋力検査法(下肢・体幹)					行った評価法の復習				
	2	反射検査					行った評価法の復習				
	3	脳神経検査					行った評価法の復習				
	4	感覚検査					行った評価法の復習				
	5	筋緊張・協調性検査 上肢機能検査					行った評価法の復習				
	6	上肢機能検査					行った評価法の復習				
	7	摂食嚥下機能検査 呼吸機能検査					行った評価法の復習				
	8	心電図のみかた 意識状態の評価					行った評価法の復習				
	9	骨関節の画像					画像の復習				
	10	ICFの利用(実際に振り分けてみる)					グループで行ったものを修正する				
	11	中間テスト／リーズニングと作業療法目標					リーズニング、目標の復習				
	12	ケーススタディ(ケーススタディの行い方)					次週につなげられるように、復習する				
	13	ケーススタディ(脳血管障害の例)					脳血管障害に例をもう一度見直す				
	14	ケーススタディ(CROT)					グループ学習で行った症例のまとめ 発表の準備				
	15	発表 後期のまとめ									
評価方法	(1)ケーススタディはレポートして提出する (2)定期試験(筆記試験)を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	中間試験(筆記)	◎		◎							60%
	発表・レポート	◎		◎		◎		◎			40%
履修上の注意											

科目名	身体障害作業療法学Ⅱ						
科目名(英)	OT for Physical Dysfunction Ⅱ						
単位数	2単位		時間数	60時間	担当者	老川 良輔	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務	
対象学科・学年	作業療学科 昼間部 2年生						
授業概要	この授業は、身体障害領域で作業療法を実践するうえで、何がクライアントにとって必要なことかを考える授業である。そのために、身体障害領域の様々な疾患に対する臨床像、疾患を理解するための評価方法、介入方法の基本を学んでいく。その他、多くの科目を統合し、「人」+「身体障害」に対応できる視点を身につける。						
授業形態	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				頭部外傷、脊髄損傷などの中枢神経の外傷性疾患について作業療法の具体的方法を理解する。	
	○	○				パーキンソン病、ALSなどの神経変性疾患について作業療法の具体的方法を理解する。	
	○	○				末梢神経損傷、骨折などの整形外科疾患について作業療法の具体的方法を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルテキスト ①ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学(MEDICAL VIEW) ③病気がみえる vol.7 脳・神経(メディックメディア) ④病気がみえる vol.11 運動器・整形外科(メディックメディア)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【疾患別】各論 頭部外傷(臨床像と作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	2	【疾患別】各論 脊髄損傷①(疫学・分類・障害像) 【疾患別】各論 脊髄損傷②(疫学・分類・障害像)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 頭部外傷の小テストを行うため、準備をすること	
	3	【疾患別】各論 脊髄損傷③(作業療法) 【疾患別】各論 脊髄損傷④(作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	4	【疾患別】各論 脊髄損傷⑤(作業療法) 【疾患別】各論 脊髄損傷⑥(作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 脊髄損傷の小テストを行うため、準備をすること	
	5	【疾患別】各論 神経・筋の異常【1】 パーキンソン病①(病態と臨床像) 【疾患別】各論 神経・筋の異常【1】 パーキンソン病②(作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	6	【疾患別】各論 神経・筋の異常【1】 パーキンソン病③(作業療法) 【疾患別】各論 神経・筋の異常【1】 パーキンソン病④(作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	7	【疾患別】各論 神経・筋の異常【2】 筋萎縮性側索硬化症①(臨床像と作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと パーキンソン病の小テストを行うため、準備をすること	
	8	【疾患別】各論 神経・筋の異常【3】 脊髄小脳変性症①(臨床像と作業療法) 【疾患別】各論 神経・筋の異常【4】 ギランバレー症候群(臨床像と作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	9	【疾患別】各論 神経・筋の異常【5】 多発性硬化症(臨床像と作業療法) 【テスト】第1回～第6回の内容に関する中間試験				中間試験の内容の準備を行うこと	
	10	【疾患別】各論 関節リウマチ①(病態と臨床像) 【疾患別】各論 関節リウマチ②(病態と臨床像)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	11	【疾患別】各論 関節リウマチ③(作業療法) 【疾患別】各論 関節リウマチ④(作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	12	【疾患別】各論 手の末梢神経損傷①(病態と臨床像) 【疾患別】各論 手の末梢神経損傷②(病態と臨床像)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 関節リウマチの小テストを行うため、準備をすること	
	13	【疾患別】各論 手の末梢神経損傷③(作業療法) 【疾患別】各論 手の末梢神経損傷④(作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	14	【疾患別】各論 骨折①(総論) 【疾患別】各論 骨折②(総論)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 末梢神経損傷の小テストを行うため、準備をすること	
	15	【疾患別】各論 骨折③(上肢：橈骨遠位端骨折の臨床像と作業療法) 【疾患別】各論 骨折④(下肢：大腿骨頸部骨折の臨床像と作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 定期試験の内容の準備を行うこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを複数回実施する。(2)授業の中で中間試験を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	発達障害作業療法学Ⅱ						
科目名(英)	Occupational Therapy for Developmental DisordersⅡ						
単位数	1単位		時間数	30時間	担当者	竹中 祐二	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	病院・児童福祉施設で作業療法士として勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年						
授業概要	1. 人間発達学で学んだ知識と発達障害作業療法学で学んだこと、そして実際の介護体験実習で学んだことを整理する。 2. 発達障害分野の各疾患について学ぶ。 3. 発達障害分野の各疾患に対する作業療法の知識を学ぶ。 4. 対象児者や家族の成長やライフサイクルの変化に対応した関わりについて学ぶ。 5. 介護体験実習Ⅱで、こどもたちの特徴を考え、こどもたちが楽しめる遊びや活動を提供する。						
授業形態	講義:	○	演習:	△	実習:	△	実技: △ ※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達学で学んだ発達過程、発達領域に関する知識を作業療法評価に活用できる。	
	○	○				代表的障害(知的障害、筋ジストロフィー、ダウン症、二分脊椎等)について臨床家を説明することができる。	
	○	○				上記障害の治療、指導、援助内容を考えることができる。	
	○	○		○		特別支援学級での介護体験実習に参加し、児童・生徒と安全に配慮しながら、遊びや活動等を提供することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 改訂第2版、メディカルビュー、2015 参考文献:岩崎 清隆・他、発達障害と作業療法[実践編]、三輪書店、2001 作業療法学全書 改訂第3版 第6巻「作業治療学3発達障害」、協同医書出版社、2010						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	介護体験実習				実習は7月上旬に実施予定。感染症の影響などで実施できない場合は座学の授業に振り替える。	
	2	介護体験実習					
	3	介護体験実習の振り返り(グループワーク)				介護体験実習の記録用紙を作成しておくこと。	
	4	介護体験実習の振り返り(まとめ)				グループワークで生じた課題についてリサーチしておくこと。	
	5	知的障害に対する作業療法(知的障害とは・評価)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	6	知的障害に対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	7	摂食嚥下障害に対する作業療法(嚥下障害とは・評価)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	8	摂食嚥下障害に対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	9	筋ジストロフィーに対する作業療法(筋ジストロフィーとは・評価)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	10	筋ジストロフィーに対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	11	ダウン症に対する作業療法(ダウン症とは・評価)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	12	ダウン症に対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	13	二分脊椎に対する作業療法(二分脊椎とは・評価・アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	14	分娩麻痺に対する作業療法(分娩麻痺とは・評価・アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
15	まとめ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します		
評価方法	(1)レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	◎	○				10%
	宿題・レポート	◎	◎		○		20%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	精神障害作業療法学Ⅱ											
科目名(英)	OT for Psychological Disorder Ⅱ											
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		脇元 啓行			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		作業療法士として病院勤務			
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年											
授業概要	①疾患の障害特性と作業療法の実際を理解する ②精神障害作業療法の基本的な実践を理解する ③精神障害作業療法の評価と計画を実施できる											
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				疾患の障害特性と作業療法の実際を説明できる。						
	○	○		○		評価を行い、情報の整理することができる。						
	○	○		○		事例演習を通して作業療法計画の立案を体験する。						
テキスト・教材 参考図書	①香山明美他編：生活を支援する精神障害作業療法-急性期から地域実践まで。医歯薬出版 ②オリジナル資料 参考文献：1)富岡詔子他編集 日本作業療法協会監修：作業治療学2 精神障害(作業療法学全書)。協同医書出版社 2)石井良和他編：精神障害領域の作業療法。中央法規 3)松井紀和編著：精神科作業療法の手引き。牧野出版 4)屋田源四郎著：統合失調症患者の行動特性。金剛出版											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	オリエンテーション 疾患、障害特性と作業療法の実際(統合失調症)					授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。					
	2	疾患、障害特性と作業療法の実際(統合失調症)					授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。					
	3	疾患、障害特性と作業療法の実際(気分障害)					授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。					
	4	疾患、障害特性と作業療法の実際(気分障害)					授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。					
	5	疾患、障害特性と作業療法の実際(神経症性障害)					授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。					
	6	疾患、障害特性と作業療法の実際(神経症性障害)					授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。					
	7	疾患、障害特性と作業療法の実際(パーソナリティ障害)					授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。					
	8	疾患、障害特性と作業療法の実際(パーソナリティ障害)					授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。					
	9	疾患、障害特性と作業療法の実際(摂食障害)					授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。					
	10	疾患、障害特性と作業療法の実際(摂食障害)					授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。					
	11	疾患、障害特性と作業療法の実際(物質依存性障害)					授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。					
	12	疾患、障害特性と作業療法の実際(物質依存性障害)					授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。					
	13	評価演習					演習準備を行う。					
	14	評価演習					演習準備を行う。					
	15	評価演習					提出課題を作成する。					
評価方法	(1)授業の中で小テスト・演習とレポート課題を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		◎								80%
	小テスト	◎		◎								20%
	演習・レポート	◎		◎				◎				
履修上の注意												

科目名	老年期障害作業療法学							
科目名(英)	OT for Aging Adults							
単位数	1単位		時間数		30時間	担当者	早川 由加里	
実施年度	2023年度		実施時期		後期	担当者実務経験	老人保健施設にて 作業療法士として勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年生							
授業概要	日本の急速な高齢化に対応する為、この科目では高齢者の特徴や使用出来る制度、評価やリハビリテーションについて学ぶ。高齢者とそれを取り巻く環境・これから必要となることについて知る。							
授業形態	講義： ○		演習： △		実習： △	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				日本の高齢化の歩みと社会制度について学び、それを記述することが出来る。		
	○	○				高齢者の“古い”・“変化”についての特徴を10個以上列举出来る。		
	○	○				老年期リハビリテーション・評価について説明が出来、評価実習など臨床現場で役立てることが出来るようになる。		
	○	○	○	○		講義・班活動などを通し、対象者や自分自身のことについて理解を深め・課題を見出すことが出来る。		
テキスト・教材 参考図書	1)小川敬之、竹田徳則 編:認知症の作業療法 ソーシャルインクルージョンをめざして 参考文献:1)松房利徳、新井健五 編:標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版 医学書院,2016. 2)宮口英樹 監修:認知症を持つ人へのアプローチ-視点・プロセス・理論-、メディカルビュー社,2014. 3)藪脇健司 編:高齢者のその人らしさを捉える作業療法 文光堂,2015.							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	オリエンテーション/高齢者のリハビリ、心身機能と評価①					事前に高齢のリハビリテーションにイメージを持つ	
	2	高齢者のリハビリ、心身機能と評価②					対象者となる高齢者について事前学習を行ってくる(1時間)	
	3	高齢者のリハビリ、心身機能と評価③					認知症の評価につて事前学習を行う(1時間)	
	4	認知症の作業療法①:概論					認知症のリハビリテーションについて事前学習を行う(1時間)	
	5	認知症の作業療法②:評価					認知症へのアプローチについて事前学習を行う(1時間)	
	6	認知症の作業療法③:					認知症へのアプローチについて事前学習を行う(1時間)	
	7	認知症の作業療法④: リハビリテーション					認知症へのアプローチについて事前学習を行う(1時間)	
	8	認知症の作業療法⑤:アプローチ					認知症へのアプローチについて事前学習を行う(1時間)	
	9	認知症の作業療法⑥:					認知症へのアプローチについて事前学習を行う(1時間)	
	10	高齢者体験実習／レクリエーション発表準備①					高齢者体験キットの着脱について事前学習を行う(30分)	
	11	高齢者体験実習／レクリエーション発表準備②					レクリエーション発表に向けて、最終的な打ち合わせや準備を行っておく(30分)	
	12	高齢者体験実習／レクリエーション発表①					レクリエーション発表に向けて、最終的な打ち合わせや準備を行っておく(30分)	
	13	高齢者体験実習／レクリエーション発表②					レクリエーション発表に向けて、最終的な打ち合わせや準備を行っておく(30分)	
	14	高齢者体験実習／症例検討①					症例経験報告書など、臨床実習で必要となる書類について事前学習しておく(1時間)	
	15	高齢者体験実習／症例検討②、まとめ					講義を通して学んだことを整理しておく(1時間)	
評価方法	(1)授業の中で小テスト・レポートを数回実施する。(2)課題発表を1回は実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○		○				80%
	小テスト	○		○				10%
	宿題・レポート	○		○				5%
	発表・作品	○		○		○		5%
履修上の注意	＊ 授業内容の順番は変更及び前後する場合がある。							

科目名	高次脳機能障害作業療法学							
科目名(英)	OT for Higher Brain Dysfunction Assessment							
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	安部 剛敏	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	作業療法士として病院勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年							
授業概要	高次脳機能障害の概要と各障害の障害像について教授する。また、高次脳機能障害が影響する生活障害について考え 作業療法士の役割についても提示する。併せて、作業療法を实践するうえで必要な画像所見や評価方法の基本的な知識と技能、作業療法介入について教授する。							
授業形態	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				高次脳機能障害の定義および典型症状を理解することができる。		
	○	○				高次脳機能障害を抱える人の生活障害をイメージすることができる。		
	○	○				各高次脳機能検査の実施を理解し、実施することができる。		
	○	○				各高次脳検査検査の結果を解釈し、説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	1)鈴木孝治：高次脳機能障害学領域の作業療法。中央法規 2)病気がみえる vol.7 脳・神経。MEDIC MEDIA							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	コースガイダンス・高次脳機能障害概論					振り返りシートで復習すること	
	2	脳の構造と機能					振り返りシートで復習すること	
	3	高次脳機能障害における作業療法の展開					振り返りシートで復習すること 小テスト①を実施します	
	4	作業療法士に必要な脳画像評価					振り返りシートで復習すること	
	5	意識障害における作業療法					振り返りシートで復習すること	
	6	注意障害における作業療法					振り返りシートで復習すること 小テスト②を実施します	
	7	意識・注意障害における神経心理学的検査					振り返りシートで復習すること	
	8	記憶障害における作業療法					振り返りシートで復習すること	
	9	情動障害における作業療法					振り返りシートで復習すること 小テスト③を実施します	
	10	記憶・情動障害における神経心理学的検査					振り返りシートで復習すること	
	11	失行症における作業療法					振り返りシートで復習すること	
	12	半側空間無視における作業療法					振り返りシートで復習すること 小テスト④を実施します	
	13	失行症・半側空間無視における神経心理学的検査					振り返りシートで復習すること	
	14	失語症における作業療法					振り返りシートで復習すること	
	15	事例提示					振り返りシートで復習すること	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを4回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	◎				80%	
	小テスト	◎	◎				20%	
	宿題・レポート							
	発表・作品							
履修上の注意								

科目名	義肢学											
科目名(英)	Prosthetics											
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		中島 大輔			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		理学療法士として病院勤務			
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年											
授業概要	義肢(義手、義足)についての適応、構造、その効果に関する知識のみならず、その作成に 関わる制度やその調整方法を含めて、臨床での事例も紹介しながら学習する。											
授業形態	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				義肢の目的、機能や構造などの基礎的知識を理解することができる。						
	○	○				義肢の適応、位置づけや役割を説明することができる。						
	○	○				義肢における作業療法士の役割を説明することができる。						
テキスト・教材 参考図書	義肢装具のチェックポイント(医学書院)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	総論、制度					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	2	切断 切断・離断の医学的治療について					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	3	切断 上下肢切断の機能的特徴とリハビリテーション					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	4	義肢総論					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	5	義足 義足の構造と部品					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	6	義足 大腿義足					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	7	義足 下腿義足					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	8	義足 その他の義足					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	9	補装具、福祉サービス					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	10	義手 義手の構造と部品					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	11	義手 前腕義手					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	12	義手 上腕義手					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	13	義手 肩義手、筋電義手他					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	14	復習					まとめプリントを使用して復習しておくこと					
	15	定期試験対策										
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		◎								60%
	小テスト	◎		◎								40%
	宿題・レポート											
	発表・作品											
履修上の注意												

科目名	日常生活活動Ⅱ										
科目名(英)	Activities of Daily Living ; PracticeⅡ										
単位数	2単位		時間数		60時間		担当者		上田 豪気 野村 和代		
実施年度	2023 年度		実施時期		後期		担当者実務経験		作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年										
授業概要	対象者の能力を最大限に引き出し、日常生活活動および生活関連動作の向上をはかり生活の質(QOL)を高めることは作業療法士の重要な役割である。この授業では、基本的動作能力や移動・移乗動作、およびセルフケアに対する理解をし、学生に対して実技ができるようにする。加えて福祉用具や住環境整備等の知識を身に付け、多面的に対象者を支援するということを理解する。そのために実際の福祉用具や住宅改修モデルの見学も実施する。										
授業形態	講義：△		演習：○		実習：		実技：△		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				福祉用具の概念を学び、その給付体系を理解し説明することができる					
	○	○				福祉用具に関する作業療法士の役割を理解し説明することができる					
	○	○		○		福祉用具の適応とADLを関連付けて理解し説明することができる					
	○	○	○			ADLの介入技能を理解し学んだ知識をOSCEで体現できる					
	○	○				ケーススタディを通して臨床推論ができるようになる					
テキスト・教材 参考図書	1)木之瀬 隆 編集:作業療法学全書第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備 第2版. 協同医書出版社.2016. 2)藤井 浩美:日常性活動の作業療法.中央法規 3)才藤栄一:臨床技能とOSCE(機能障害・能力低下への介入編)。金原出版株式会社 参考文献: 1)テクノエイド協会:住宅改修ハンドブック 自立支援のための住宅改修事例集. テクノエイド協会.2008. 2)テクノエイド協会:福祉用具を上手に利用するためのQ&A. テクノエイド協会.2008. 3)中村 恵子:もっとらくらく動作介助マニュアル. 医学書院 4)藤井 浩美:日常生活活動の作業療法. 中央法規										
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示			
	1	福祉用具概論 福祉用具供給システム 治療に関する機器(各種作業台、筋力増強・筋持久力改善に用いる機器)						制度に関する知識の整理と配布資料の整理と復習			
	2	ベッド周辺機器 移乗補助用具						配布資料の整理と復習			
	3	生活に関する機器(排泄関連用具/入浴関連用具) 自助具(自助具導入の流れ)						配布資料の整理と復習			
	4	自助具(レポート)						自助具について疾患別レポート提出/配布資料の整理と復習			
	5	環境制御装置・意思伝達装置・スイッチの工夫						配布資料の整理と復習			
	6	住宅改修(住宅の役割と住宅改修の必要性/ 基本的な改修項目と実例)						配布資料の整理と復習/見学に向けて授業内容の振り返り			
	7	福祉機器展示場見学(レポート)						福祉機器展示場見学レポート提出			
	8	ポジショニングに対する介入技能						教科書3)の今回の範囲の予習と復習			
	9	起き上がりに対する介入技能						教科書3)の今回の範囲の予習と復習			
	10	起立・着座に対する介入技能						教科書3)の今回の範囲の予習と復習			
	11	移乗に対する介入技能						教科書3)の今回の範囲の予習と復習			
	12	歩行に対する介入技能						教科書3)の今回の範囲の予習と復習			
	13	ケーススタディ(脳血管障害)						配布資料の復習			
	14	ケーススタディ(整形外科疾患)						配布資料の復習			
	15	まとめ						配布資料の復習			
評価方法	(1)レポートを実施する 20%(施設見学レポート)。 (2)定期試験(筆記)を実施する 80%。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)		◎	◎				80%			
	宿題・レポート		◎	◎	○	○		20%			
	発表・作品										
履修上の注意											

科目名	作業療法総合演習									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		安部 剛敏	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		作業療法士として病院勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年生									
授業概要	臨床現場で求められる基本的態度や各領域および疾患に必要な臨床技能、臨床思考過程について各領域の作業療法士から教授いただく。また、作業療法を経験した当事者から、作業療法士に求められる倫理観や基本的態度についても講義していただく。臨床実習で必要な基本的な臨床技能については、OSCEを用いて演習を実施する。									
授業形態	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				臨床に必要な基本的態度・臨床技能・思考過程について理解できる				
	○	○		○		当事者の講義を通して作業療法士として必要な倫理観や基本的態度を習得できる。				
	○	○	○	○		OSCEを通して、基本的な臨床技能を習得できる。				
テキスト・教材 参考図書	1)オリジナル資料 2)PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	コースガイダンス・臨床実習概論・臨床実習に必要な基本的態度					講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする			
	2	臨床実習に必要な臨床技能・臨床思考過程					講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする			
	3	精神科作業療法に求められる倫理観と基本的態度					講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする			
	4	精神科作業療法に求められる臨床技能と思考過程					講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする レポート提出を行う			
	5	当事者が語る作業療法(学び合い①)					講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする レポート提出を行う			
	6	当事者が語る作業療法(学び合い②)					講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする レポート提出を行う			
	7	当事者が語る作業療法(学び合い③)					講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする レポート提出を行う			
	8	当事者による講義					講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする レポート提出を行う			
	9	急性期・亜急性期作業療法に求められる倫理観と基本的態度					講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする			
	10	急性期・亜急性期作業療法に求められる臨床技能と思考過程					講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする レポート提出を行う			
	11	臨床技能とOSCE①(コミュニケーション技能)					PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)の該当箇所を繰り返し学習する。			
	12	臨床技能とOSCE②(療法士面接)					PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)の該当箇所を繰り返し学習する。			
	13	臨床技能とOSCE③(関節可動域測定)					PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)の該当箇所を繰り返し学習する。			
	14	臨床技能とOSCE④(筋力測定)					PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)の該当箇所を繰り返し学習する。			
	15	評価実習ガイダンス					PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)の該当箇所を繰り返し学習する。			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)ポートフォリオを提出する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	提出物	◎	◎		◎		50%			
	小テスト									
	宿題・レポート	◎	◎	◎	◎		50%			
	発表・作品									
履修上の注意	授業内容の順序は入れ替わることがあります。									

科目名	地域作業療法学Ⅱ							
科目名(英)	Community Based Occupational TherapyⅡ							
単位数	2単位		時間数	60	担当者	福井 綾(身体障害・老年期) 小野 仁(発達障害) 脇元 哲行(精神障害)		
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	福井 綾(病院・施設で作業療法士として勤務) 小野 仁(病院・福祉施設で作業療法士として勤務) 脇元 哲行(病院で作業療法士として勤務)		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年							
授業概要	地域作業療法の理念と役割を理解するとともに、身体障害領域および介護保険領域、発達領域、精神領域における地域作業療法の知識基盤および実践的方法論理解する。また、日本作業療法士協会が開発した生活行為向上マネジメントの基礎的な知識と実際の評価、マネジメントの方法について理解する。各領域での実践例についても直接触れ、その実践を理解する。							
授業形態	講義：	○	演習：	△	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				地域作業療法の理念と役割を説明することができる。		
	○	○				各領域の地域生活における生活障害の特徴を例を挙げて説明することができる。		
	○	○				学生を相手に生活行為向上マネジメントを模擬的に実施し、介入プランを立案することができる。		
	○	○				模擬症例を通して、地域生活におけるケアプランおよび作業療法プランを立案することができる。		
テキスト・教材 参考図書	1)福岡県社会福祉協議会編：障害者福祉情報ハンドブック2018 2)寺山 久美子編：作業療法学全書別巻 地域作業療法学。協同医書出版社 3)香山明美他編：精神障害作業療法－急性期から地域実践まで 医歯薬出版 参考文献：1)精神障害の急性期作業療法と退院促進プログラム(日本作業療法士協会)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	身体障害・老年期	地域作業療法の理念と役割				講義資料を通して復習しておくこと	
	2		介護保険制度の概要と給付				講義資料を通して復習しておくこと	
	3		ケアマネジメントについて(アセスメントからケアプラン立案までの流れ)				講義資料を通して復習しておくこと	
	4		生活行為向上マネジメントについて				講義資料を通して復習しておくこと	
	5		地域作業療法の実際(作業療法士の活動内容)				講義資料を通して復習しておくこと	
	6	発達	地域作業療法の知識基盤(理念と役割、社会資源)の振り返りと家族の想い				講義資料を通して復習しておくこと	
	7		発達障害児(者)の困り感(ライフステージに沿って)				講義資料を通して復習しておくこと	
	8		発達障害児(者)のケアマネジメントと自立支援(意思決定支援)について				講義資料を通して復習しておくこと	
	9		障害児の福祉サービス、家族支援、ケアマネジメント、医療的ケア児の生活支援				講義資料を通して復習しておくこと	
	10		地域作業療法の実際(保育所等訪問支援の視点から)(外部講師)				講義資料を通して復習しておくこと	
	11	精神	地域支援の概要 事例演習(生活行為アセスメント)				講義資料を通して復習しておくこと	
	12		事例演習(生活行為アセスメント) 地域生活支援のあり方と実際(再発予防・ケアマネジメント)				講義資料を通して復習しておくこと	
	13		地域生活支援のあり方と実際(外来作業療法・デイケアでの支援)				講義資料を通して復習しておくこと	
	14		地域生活支援のあり方と実際(就労支援・福祉サービス・事例紹介)				講義資料を通して復習しておくこと	
15	事例演習(生活行為向上プラン) 地域作業療法の実際(外部講師)				講義資料を通して復習しておくこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 定期試験は、各領域30点で合計90点満点で実施し、素点を100点満点換算し処理する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%	
	小テスト							
	宿題・レポート							
	発表・作品							
履修上の注意	講義の進み具合や外部講師の状況によって、講義順の入れ替えや講義時間の変更を行うことがある。							

科目名	職業関連活動											
科目名(英)	Occupational Therapy for Vocational Rehabilitation											
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		小松 洋平			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年											
授業概要	障害の有無に関係なく、働くことの意味について考えながら、現在の日本での障害雇用や就労形態、それを支える法制度や支援について学ぶ。また、職業リハビリテーションにおけるOTの役割と現状を知り、今後の就労支援のありかたについて理解を深める。											
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				職業の意義の3つの側面について説明することができる。						
	○	○				障害者の就労支援制度について、授業で取りあげたものを列挙することができる。						
	○	○				職業リハビリテーションにおける就労支援機関について主となるものを3つ挙げ、その概要を説明することができる。						
	○	○				職業リハビリテーションに関わる職種の中でのOTの役割特性について説明することができる。						
	○	○		○		障害者の就労支援について、関心のあるテーマを自ら調べることができる。						
テキスト・教材 参考図書	1. 福岡県社会福祉協議会 編：福岡県障がい者福祉情報ハンドブック2020。 2. 日本作業療法士協会 編：作業療法マニュアル60 知的障害は発達障害のある人への就労支援,2016。 3. 配付資料 4. その他：参考となる文献および情報源は授業で紹介します。											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	職業関連活動概説					事前にシラバスを読んでおくこと					
	2	『自分の職業』と『働くことの意味』について考える					働くことの意味について意見を述べられるように整理しておくこと					
	3	職業の定義、意義、分類、職業選択、人の職業的発達					職業の意義、職業選択の際の法的制約、人の職業発達について復習しておくこと					
	4	職業適性および職業適性検査					それぞれの検査の目的・特徴を復習しておくこと					
	5	各検査結果のまとめおよび解釈、職業適性のまとめ					職業適性検査でわかることと職業適性の意味について確認しておくこと					
	6	障害者の定義、範囲、職業の意義、就労にける問題、就労形態					障害者とはどのような人なのか説明できるように整理しておくこと					
	7	障害者雇用の現状、 職業リハビリテーションの歴史および定義					法定雇用率および現状、職業リハの主要な歴史および定義について復習しておくこと					
	8	職業リハビリテーションに関係する法制度、就労支援機関、各種サービス					主要な法制度、就労支援機関およびそのサービスの概要について復習しておくこと					
	9	職業リハビリテーションと OT(1)OTの役割、目的、就労とリハゴール、評価の領域					OTが働く分野およびそれぞれの役割、リハゴールとしての就労について復習しておくこと					
	10	就労支援の実際(1)福祉的就労施設における就労支援(※)					福祉的就労支援施設の種類・内容を調べておくこと					
	11	就労支援の実際(2)発達障害分野における就労支援(※)					発達障害の障害特性について調べておくこと					
	12	就労支援の実際(3)精神障害分野における就労支援(※)					精神障害の障害特性について調べておくこと					
	13	就労支援の実際(4)身体障害分野における就労支援(※)、職リハとOT(2)評価					身体障害の原因の一つである脳血管障害の障害特性について調べておくこと					
	14	課題発表					課題発表および質疑応答の準備をしておくこと					
15	まとめ					確認テストを実施するので、講義資料を参考に復習をしておくこと						
評価方法	(1)レポートおよび発表を各1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○										80%
	小テスト											
	宿題・レポート	○										10%
	発表・作品	○						○				10%
履修上の注意												

科目名	評価実習						
科目名(英)	Clinical Practice						
単位数	3単位		時間数	145時間		担当者	作業療法学科教員 臨床実習指導者
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	作業療法士として病院勤務
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年						
授業概要	臨床実習指導者の指導のもと、作業療法士として求められる倫理観や基本的態度を身につける。学内で学習した作業療法評価の技能(検査・測定/面接/観察/情報収集)を臨床場面で経験する。評価結果から統合と解釈を行い、作業療法目標の設定までの臨床思考過程を習得する。						
授業形態	講義: △		演習:	実習: ○	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		臨床実習指導者の指導のもと、作業療法士に求められる倫理観や基本的態度を習得できる。	
		○	○	○		臨床実習指導者の指導のもと、作業療法評価計画から作業療法目標の設定までの思考過程を説明できる。	
		○	○	○		一事例の作業療法過程を症例経験報告書(またはMTDLP報告書)に整理し報告することができる。	
		○		○		評価実習で学んだことを他者と共有し、他者の経験から多様な視点、考え方を学ぶことができる。	
テキスト・教材 参考図書	1)評価実習ガイダンス 2)PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	●評価実習事前セミナー:1月29日(月)～2月3日(土) ・実習における感染対策やリスク管理に関する講義を実施する。 ・デイリーノート/ケースノート/報告書等の書き方に関する講義を実施する。 ・臨床技能の試験(OSCE)を実施する。 ●評価実習:2月5日(月)～2月24日(土) ※施設の就業規定に応じて3週間実施(5日/週を基本とする) ●評価実習事後セミナー:2月26日(月)～3月2日(土) ・各施設で学んだことを共有するグループワークと症例報告会を実施する。 ・提出課題について、担当教員よりフィードバックを受ける。 ・臨床技能の試験(OSCE)を実施する。					
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	実習成績報告書に基づく臨床実習指導者による採点と学校への提出物、実習後セミナーでの症例報告などを総合的に判断して100点満点で判定する。 成績評価基準はA(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習課題の遂行		◎	◎	◎		60%
	提出課題		◎		◎		30%
	OSCE		◎	◎			10%
履修上の注意							